

水の事故を防ごう

夏休みにはバーベキュー、キャンプや魚釣りなど、海や川へ遊びに行く機会が増えると思います。

暑い季節の水遊びは楽しい行事ですが、毎年全国各地で悲しい水の事故が発生しています。水の事故を防ぐためにはどうすればよいか、事故が起きた時どうすればよいか、お話しします。

《《水の事故を防ぐには》》

水難事故で死亡している人のうち約8割が「泳ぎに行った時以外に事故に遭った」というデータが出ています。逆に言うと、プールや海水浴場で死亡したというのは全体の約2割と少数です。なぜでしょうか。それは溺れた時の服装に大きな違いがあります。

服を着ていると泳ぎにくくなります。この状態で無理に泳ごうとするとパニックになり、体力の消耗につながります。

まずは冷静に状況を判断するため、仰向けになり、大の字の体勢を作りましょう。こうすることで、長時間浮くことが出来ます。その間に助けを呼んだり、浮かんでいる流木やペットボトルに掴まったりして、助けを待ちましょう。

《《溺れている人を見つけたら》》

●まずは助けを呼ぶ

溺れた人を見つけたら、さっと上着を脱いで飛び込む…ドラマなどでよく目にするシーンですが、実際には一番やってはいけない救助法です。慌てた対応で二重遭難・二次災害の発生リスクが

高まるからです。遭難者はたいていパニック状態のため、救助者にしがみつこうとしたり暴れたりするのが普通です。そのため、泳ぎに自信のある人でも、泳いで救助するのは非常に危険なのです。

●身近なものを使うか素手で

引き込まれないように岸に腹ばいになり、手をのばして引き寄せます。手が届きそうにない時は、自分のシャツやベルトをとって、あるいは身近にある棒、板きれ、縄などにつかまらせて引き寄せます。



●道具を使って



浮輪やペットボトルはもちろん、ふたを閉めたクーラーボックス、大きく膨らませたごみ袋なども効果的です。それらをしっかりとロープで結び、下手投げで溺れている人の後方に落ちるように投げます。しっかりとつかまったのを確認してから、静かに引き寄せます。

溺れている人を見つけた時は、海の場合は海上保安庁118番へ、川や池の場合は消防署119番へ通報してください。

●通報も忘れずに

溺れている人を見つけた時は、海の場合は海上保安庁118番へ、川や池の場合は消防署119番へ通報してください。